

(5) 出荷本数の確保による輪ギク産地の維持

【要 約】

関係機関と連携して技術情報の発信や現地検討会、立ち枯れ軽減や炭酸ガス施用技術の展示ほ設置、生産者研究グループの組織化を行い、一作当たりの出荷本数向上を図った。さらに、重点指導対象者への巡回指導や青年部活動等を通じて施設利用効率向上の意識付けを行い、施設面積当たりの年間出荷本数の向上を図った。

その結果、炭酸ガス発生機導入農家数は2戸（平成30年）から8戸（令和2年）に増加し、作付面積3.3㎡当たりの出荷本数が133本（H30年比104%）に向上した。また、施設面積3.3㎡当たり年間出荷本数260本を達成する農家割合は36%（H30年比156%）に向上した。

【目 的】

八女地域の輪ギク産地では、部会員の減少、病虫害被害や冬季のボリューム不足等による出荷ロス、労働力や親株面積の不足による輪ギク作付面積の減少などによって出荷本数が減少している。

そこで、作付面積および施設面積当たりの出荷本数を向上させることで出荷本数を確保し、輪ギク産地の維持を図る。

1 活動対象の概況（令和元年度）

J Aふくおか八女電照菊部会 114名 施設面積 59ha
販売金額 23.5 億円

2 活動の内容等

(1) 一作当たりの出荷本数の確保

病虫害発生予察に基づき病虫害防除等の技術情報を発信し、適期防除の徹底を図った。出荷ロスの主要因となっていた夏秋ギクの立ち枯れについて、展示ほを設置し、土壌物理性改善による立ち枯れ軽減技術の普及を図った。また展示ほ設置と生産者による研究グループ（写真1）を組織することで、冬季の炭酸ガス施用と密植を組み合わせた出荷本数増加技術の普及を図った。

(2) 施設面積当たりの年間出荷本数の確保

重点指導対象者への巡回指導等を実施し、個別農家の課題解決を支援した。労働力不足や親株面積不足に対しては適正な労働力や親株面積確保の推進資料を作成し、部会に発信した。さらに青年部に対して経営勉強会（写真2）を実施し、出荷率及び施設利用効率の向上を推進した。

3 活動の成果

(1) 一作当たりの出荷本数の確保

病虫害防除が徹底され、病虫害による出荷ロスが減少した。土壌物理性改善や薬剤処理による立ち枯れ対策の徹底が図られ、災害要因を除いた立ち枯れ率は低下した。また炭酸ガス発生機導入農家数は2戸(平成30年)から8戸(令和2年)に増加した。その結果、作付面積3.3㎡当たりの出荷本数は127本(平成30年)から133本(令和2年)に向上した。



写真1 炭酸ガス施用研究グループ活動の様子



写真2 青年部勉強会の様子

(2) 施設面積当たりの年間出荷本数の確保

新型コロナウイルスの影響による単価の先行き不安でスプレーギク等への作付け転換が進んだことや、台風被害等により、輪ギクの作付面積が減少した。しかし作付面積当たりの出荷本数が増加したことで、輪ギクの施設面積3.3㎡当たり年間出荷本数260本を達成した農家割合は23%(平成30年)から36%(令和2年)に向上した。

4 今後の見通し又は課題

新型コロナウイルスの影響による単価下落で収益性低下が懸念されるなか、今後輪ギク産地を維持するためには、高収益な持続的経営体を育成していく必要がある。

そのため、土壌物理性の改善による立ち枯れ対策や炭酸ガス施用による密植栽培などの新技術をさらに普及させ、生産性向上を図るとともに、近年輪ギクとの複合経営が進み需要が拡大しているスプレーギク等も含め、施設利用効率の改善や秀品率の向上を図り、持続的経営体を育成していく。